

医療法人博愛会 京都病院

小倉 恵さん

在宅・慢性期領域パッケージ修了



★働きながら受講したこと

(e-learning視聴や集合研修等)

e-learning視聴は、自分の時間で受講することが可能で、仕事を休むことなく受講出来ました。時間を有効的に活用できれば良かったのですが、休みは家庭の事をしながらの視聴で同じ場面を繰り返し見るが多かったです。集合研修では、仲間と講師とディスカッションすることでより知識を深めることができました。途中、コロナに感染しましたが、ZOOM参加ができるように調整してもらえたので、安心して研修をうけることができました。

★研修修了後の看護実践(変化したことなど)

研修では自身の良かったところ足りないところが明確になり自分自身を知ることで、日々の看護が少しずつ変化してきたと実感しています。慢性期医療の幅広い疾患の患者さんへの看護にあたり、研修で学んだ病態、解剖生理や臨床推論などの研修内容の重要性を現場で改めて実感し、振り返っています。主治医とディスカッションを重ね、病態や治療を深めたうえで、スタッフの意見を聞きながら意見交換を行い、より良い看護をもう一度考えるようになりました。

★受講を決めたきっかけ★

私は、医療療養病棟に勤務して7年が経過する中で、継続的な治療を必要として入院される患者さんで持ち込みの難治性褥瘡がある場合、入院が長期化する中で寝たきりになることもあり、難治性褥瘡の処置や看護に難渋していました。私一人が褥瘡に興味があるだけでは患者さんを良くすることはできず、まずは専門的な知識や技術を身につけ、多職種とともに患者家族に寄り添える看護師でありたいという思いがありました。さらに、自分の病院が協力施設だったため、実際にやっている先輩の姿を垣間見て、看護師が特定行為によりタイムリーに対応できれば患者さんへの負担が減るのではないかと考え、受講を決意しました。

★臨地実習で経験したこと

協力病院での実習は、複数の受講者と一緒だったので情報共有ができ、所属施設とは違ったやり方を知る機会となり良かったです。所属施設実習では、実習と業務を区別するため実習日は部署での業務を行わないように調整し、実習に集中できました。実践において極度に緊張しやすい事に気づき、事前準備や自宅練習を行いイメージトレーニングがものすごく重要だと思いました。実習記録の作成を、教員に個別指導をしてもらいながら行いましたが、自分の考えを言語化するのが難しかったです。指導医とのディスカッションで病態をより深く学べ、治療がどの方向に進んでいるのかなど、医学と看護学の両方の視点から学ぶことができました。

★これから研修受講を考えている方へ

研修中は課題をこなすことで余裕がなくなりがちでしたが、研修を終えた今だからこそスキルアップにつながる研修だったと言えます。教員や仲間の支えはもちろん、実習先で先輩方のサポートも得られる環境なので、安心して研修に望むことができます。何より、所属施設で実習を行えたので研修修了後の活動などをイメージすることもできて良かったです。